

## 救助犬エリーの物語

W・ブルース・キャメロン著／西本かおる訳

小峰書店 1,400円＋税

子犬のときに素質を見いだされ、警察犬として訓練を受けるエリー。〈シゴト〉が大好きなエリーは、警官のマイアという愛情深いパートナーに恵まれ、数々の救助活動で、たくさんの命を救う。エリーが、「わたし」と、一人称で次々と起こるできごとを語り、物語は進む。読み終わるころには、読者は、エリーに深い共感を覚えているだろう。

長友恵子(ながとも けいこ)  
児童書翻訳者

## モルモット・オルガの物語

マイケル・ボンド作／おおつかのりこ訳

PHP 研究所 1,300円＋税

モルモットって自己中心的でこだわりが強く、でもそこが逆に愛しく感じられる動物です。(モルモットを飼っている娘が、「オルガはうちの子にそっくり!」と証言。)オガクズ家にやってきた、夢見るオルガの語るお話の数々と、友達になった動物たちとのやりとり、そしてオルガの身に起きる意外な事件にきっとドキドキしますよ。

野坂悦子(のざか えつこ)  
翻訳者

## バレエをおどりたかった馬

H・ストルテンベルグ作／さとうあや絵／菱木晃子訳

福音館書店 1,200円＋税

田舎に住む馬だって、華麗にバレエをおどりたい! 町のバレエ学校に入学した馬は、奮闘努力の末に――。愉快で心温まるノルウェーのおはなし。日本で出版されてから、今年でちょうど20年。親子二代にわたって読み継がれる息の長い本になりました! 小学校低学年向けの、まさに「はじめての海外文学」にふさわしい一冊です。

菱木晃子(ひしき あきらこ)  
北欧文学・絵本翻訳家

## 野生のロボット

ピーター・ブラウン作・絵／前沢明枝訳

福音館書店 1,900円＋税

無人島に流れ着いたロボット・ロズは、親のない赤ちゃんガンの母親となって動物たちの信頼を得ていきます。助け合いながら厳しい環境を生き抜こうとするロズと動物たち。どんなことでも真摯に向き合うロズに心打たれます。イラストがいっぱいで、読むのが苦手でも大丈夫。最後は息をのむ展開に。読みだしたら止まりません。

前沢明枝(まえざわ あきえ)  
児童文学翻訳家

## ジュディ・モードはごきげんななめ

メーガン・マクドナルド著／ピーター・レイノルズ絵／宮坂宏美訳

小峰書店 1300円＋税

ジュディ・モードはアメリカの小学3年生の女の子。元気いっぱい、なかよしの男の子となまいきな弟がいて、ばんそうこうを集めるのが好きで、お医者さんになりたいくて、「ふきげんモード」になるのがとくい。そんなジュディとなかまたちがくりひろげる大人気のロングセラー作品です。レイノルズのおしゃれなさし絵とともにぜひ楽しんでください!

宮坂宏美(みやさか ひろみ)  
翻訳家

## ベネベントの魔物たち1 いたずらの季節

ジョン・ペーメルマンス・マルシアーノ作／

ソフィー・ブラッコール絵／横山和江訳

偕成社 1,300円＋税

人間と魔物が共存する1820年代のイタリアのベネベントを舞台に、子どもたちが活躍する昔話風の世界です。シリーズ第1巻では、直感的に行動するローザと謎解きが好きな慎重派のエミリオという対照的な性格の双子のきょうだい、魔物を追いはらうために奮闘します。ソフィー・ブラッコールの絵が文章と融合している楽しい作品です。

横山和江(よこやま かずえ)  
子どもの本の翻訳者

# はじめての海外文学

## Vol. 5



### 児童書

## はじめての海外文学フェア

### Vol. 5

\*

「はじめての海外文学」フェアは、日本じゅうの書店店舗が協力し、お薦めの海外作品をいっせいに売っていく壮大な試みです。

2019年も11月から第5回フェアが各書店で展開されます。今回も大人向け、子供向けの両部門で開催され、選書メンバーの翻訳者は、合わせて86名。

どうぞ素敵な本との出会いがありますように。

\*

## 魔女のむすこたち

カレル・ボラーチェク作／小野田澄子訳

岩波少年文庫 720円＋税

魔女のむすこ、エドダントとフランシモルは68歳と66歳。まだ子どもなので小学校に通っています。魔法のほうきに乗って遠足に行ったら、ほうきがこわれ、山賊につかまり、カッパと出会い、フランシモルが行方不明になり……(あれ、遠足は?)。作者カレル・ボラーチェクはユダヤ系チェコ人で、ホロコーストで命を落としています。

赤塚きょう子(あかつか きょうこ)  
イタリア児童文学翻訳家

## ジュリアが糸をつむいだ日

リンダ・スー・パーク作／ないとうふみこ訳

徳間書店 1,600円＋税

親友パトリックと、「カイコを飼って糸をとる」という、気乗りのしない自由研究をすることになった韓国系アメリカ人のジュリア。どうやったら、カイコの卵や桑の葉を手に入れられる? 自力で調べ、考え、時にはけんかをしつつ、悩み、工夫し、ジュリアはさまざまなことに気づいていきます。驚きと感動いっぱいの自由研究物語。

宇野和美(うの かずみ)  
スペイン語翻訳者

## 完訳 オズのふしぎな国

ライマン・フランク・ボーム著／宮坂宏美訳

復刊ドットコム 1,800円＋税

だれもが読んだことがある『オズの魔法使い』。でも、オズの国の話はシリーズ化されていて、しかも14作に及ぶことはご存じでしょうか。この第2作『オズのふしぎな国』には、第1作をしのぐ個性的なキャラクターがたくさん出てきます。そして、シリーズの主演となるオズマ姫の登場の仕方といったら! 作品のジャンルとして「ミステリー」を入れたのは冗談ではありません。読みはじめるのと止まらないオズ・シリーズの世界へようこそ!

越前敏弥(えちぜん としや)  
文芸翻訳者

## はじめての海外文学 公式 SNS

Twitter



@kaigaibungaku

公式サイト



https://hajimetenokaigaibungaku.jimdo.com/

はじめての海外文学フェアと関連イベントの情報はもちろん、日本で一番(?)充実した海外文学・翻訳書イベント情報を日々更新するサイト。のぞいてみてね。



## 小さい魔女

オトフリート=プロイスラー作／大塚勇三訳

学研プラス 900円＋税

これは、まだ百二十七さいの、ひよっこ魔女の話。年にいちどの魔女のお祭りにでたくて、やんちゃな魔女は「いい魔女」になろうと決心します。つついいたずらして、友達のカラスに注意されながらも、魔法の腕をあげ、やきグリ売りの風邪をなおし、森のたまご泥棒をこらしめる魔女。さて、今年のお祭りにでられるでしょうか？

おおつかのりこ

英語翻訳者

## ぼくたちは幽霊じゃない

ファブリツィオ・ガッティ作／関口英子訳

岩波書店 1,700円＋税

これは、イタリアへ移民したアルバニア人の家族の物語です。日本を含め世界中に主人公ヴィキのような子供はいるはずです。偏見や差別がヴィキたちを、存在してはならない「幽霊」に変えようとしています。移民は幽霊じゃない。では何者か。誰もが知っているその答えを、僕たちはヴィキにもう一度教えてもらう必要があります。

小野正嗣 (おの まさつぐ)

作家、フランス語・英語翻訳者

## 嵐をしずめたネコの歌

アントニア・バーバー著／おびかゆうこ訳

徳間書店 1,700円＋税

大嵐に見舞われ食べるものがなくなった村を救うため、年老いた漁師とその飼い猫が荒れ狂う海に命がけで挑む——イギリス南西部のコーンウォールに伝わる伝説をもとに創作された感動の物語。漁村の風景、漁師と猫の姿を丁寧に描いた細密画の挿絵が素晴らしい。飼い主を守ろうとする猫の健気さに胸が熱くなる。

おびかゆうこ

子どもの本の翻訳者



## カモメに飛ぶことを教えた猫 (改版)

ルイス・セプルベダ著／河野万里子訳

白水Uブックス 900円＋税

1998年の刊行以来、ロングセラーになっているこの物語が、今年、劇団四季のファミリーミュージカルになりました。いま全国で上演されています。四季の舞台はさすがのすばらしさ。でもこの本で、舞台とはちょっとだけちがうオリジナルストーリーのおもしろさと感動も、ぜひ！ 小学生読者のためにルビを大幅に増やしてあります。

河野万里子 (こうの まりこ)

翻訳家、上智大学非常勤講師

## イマジナリーフレンドと

ミシェル・クエヴァス作／杉田七重訳

小学館 1,400円＋税

ジャック・パビエは双子の妹フラールと大のなかよし。ほかの人からきらわれても無視されても、ちょっともさびしくない。でも、あるとき、自分自身のとんでもない秘密を知って、自由を手に入れようと旅にでる——フラールとの絆を断ちきって。もしかしたらあなたも心のどこかに秘めている、たいせつな友だちの物語。

児玉敦子 (こだま あつこ)

翻訳者

## 負けるな、ロビー！

マイケル・モーバーゴ作／マイケル・フォアマン絵／

佐藤見果夢訳

評論社 1,200円＋税

こんな設定は訳者としてはじめて、昏睡状態の少年の心の中で話が進みます。回復のきざしが見えずに、周りはお口オロオロするばかり。ところが、当のロビーには、見舞い客の話し声も、父さん母さんの独り言も、毎朝看護師さんが口ずさむ歌も聞こえているのです！ やがて、少年の意思と、憧れのサッカー選手、そして愛犬が奇跡を起こします。

佐藤見果夢 (さとう みかむ)

英米児童文学、絵本翻訳

## 願いをかなえる呪文 (ザ・ランド・オブ・ストーリーズ1)

クリス・ゴルフ著／田内志文訳

平凡社 1,800円＋税

有名なおとぎ話の「めでたしめでたし」の後の世界が描かれた、子供から大人まで楽しめるファンタジー小説シリーズ。ウィットと頭の回転の速さに恵まれた著者による、とことん温かいストーリーテリングに、心の底から癒やされてしまう人は少なくないはず。手に汗にぎる展開で一気にとこの厚さを読み切るのは、本当に快感。読書の楽しさがとことん味わえる一冊だと思う。

田内志文 (たうち しもん)

物書き。翻訳家。スヌーカー・プレイヤー。シーランド公国男爵。

## りこうすぎた王子

アンドリュー・ラング作／福本友美子訳

岩波少年文庫 640円＋税

一見ふつうの昔話のようですが、おやっ？ 様子ががちがいますよ。なにしろ主人公の王子はハンサムではあるものの、妖精や魔法を信じないし、なんでもできて理屈っぽいせいで、みんなに嫌われているんですから。昔話の再話で有名なラングが、いろんなお話のおもしろい要素をつめこんで書いた物語、ぜひお楽しみください！

武富博子 (たけとみ ひろこ)

英米児童文学翻訳者

## ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集

アーサー・ビナード、木坂涼編訳

岩波少年文庫 640円＋税

ガラガラヘビってどんな味がするのでしょうか。ここには、そんなおかしなタイトルの詩をはじめとする、「食べごろ」のアメリカの詩が62篇つまっています。有名な詩人ホイットマンの詩あり、先住民の唄あり。詩人のアーサー・ビナードさんと木坂涼さんが編んで訳したこの詩集、くすくす笑えて、たまにじんわりして……最高です！

田中亜希子 (たなか あきこ)

英米児童文学翻訳家



## 泥

ルイス・サッカー著／千葉茂樹訳

小学館 1,400円＋税

名作『穴』のルイス・サッカーによるサスペンスフルなパニック小説。正体不明の「泥」によって危機に陥った人類を救ったのは、ひとりの少女の勇気ある行動だった。こわいけど、先が気になってページを繰る手が止まらない！ 勇気と友情、そして希望にあふれた一冊。

千葉茂樹 (ちば しげき)

英米文学翻訳家

## モノ・ジョーンズとからくり本屋

シルヴィア・ビショップ作／三辺律子訳

フレーベル館 1,400円＋税

モノ・ジョーンズの家族は、なんと、くじで当選して、本屋さんを、まるごともらえることに。

しかもその本屋さんときたら、まるで遊園地みたい。夢のようにすてきなお店です。

ところが、夢のような話にはワナがある?! 本屋をねらう、謎の悪人が登場。

しかもモノには、家族にも話していない秘密があつて……。わくわくどきどきの冒険が始まります。

ないとうふみこ

児童文学翻訳家

## 物語 たくさんのお月さま

ジェームズ・サーバー作／ルイス・スロポドキン絵／

なかがわちひろ訳

徳間書店 1,700円＋税

わたしのお月さまは真珠でできています。

金や、石綿や、チーズでできているお月さまもあるようですよ。

月って、たくさんあるのですって。

ひねりのきいた文筆家、J・サーバーによる愛らしいおとぎ話は、ピリリと諷刺スパイス入り。

ふんぞりかえって、いばっている人が賢いとはかぎりませんよ〜。

なかがわちひろ

児童書・絵本の翻訳者